

第65回日本神経化学学会大会 若手道場優秀発表賞受賞の声

富山大学和漢医薬学総合研究所 神経機能学領域
井城 繪沙

この度は、NEURO2022 若手道場におきまして優秀発表賞を拝受いたしました。このような素晴らしい賞をいただき大変光栄です。また、大会関係者の皆様には深く御礼申し上げます。若手道場での発表や学会全体を通して、様々な先生方と活発な議論を交わすことができ大変勉強になりました。また多くのご質問やご助言をいただき、研究を加速させるヒントを得られたことを大変有難く思います。これからもより一層研究に精進してまいります。日本神経化学学会の皆様、今後とも宜しくお願いたします。

慶應義塾大学医学部生理学教室 博士課程1年
大石 光洋

慶應義塾大学医学部生理学教室博士課程1年の大石光洋と申します。この度は栄誉ある賞を下さりに有難うございます。この発表は学部時代に所属していた田中謙二研究室における、オリゴデンドロサイト前駆細胞の光操作技術についてのものでした。本研究は、同研究室の田中教授をはじめ、同阿部欣史助教や学部生の伊庭さん、そして、山形大学医学部の山崎良彦准教授のご協力をいただきました。皆様にご場をお借りして厚くお礼申し上げます。

横浜市立大学大学院生命医科学研究科生体機能医科学研究室
川口 祐生

この度はこのような名誉ある賞をいただき大変光栄に思います。指導教員である竹居光太郎教授、ならびに生体機能医科学研究室の皆様にご場を借りて厚く御礼申し上げます。私はアミロイド β の神経変性作用を抑制する分子機構について発表させていただきました。発表の際に多くの方々からフィードバックをいただき、大変参考になりました。今後はそれらの意見も参考にしながら、より一層研究に精進したいと思います。最後に、若手道場のような素晴らしい発表の場を設けてくださった日本神経化学学会の先生方に感謝いたします。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

藤田医科大学大学院保健学研究科医療科専攻 レギュラトリーサイエンス分野
博士後期課程3年 小菅 愛加

この度は第65回日本神経化学学会大会若手道場にて名誉ある賞をいただけましたこと、心より感謝申し上げます。私はうつ病病態における脾臓の役割についての検討を行っています。演題発表の場では、数

多くの先生方から貴重なご助言をいただき、大変勉強になりました。今後の研究を進めていく上で大変勉強になりました。今回の受賞を励みにより一層研究に励みたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

奈良県立医科大学精神医学講座
小森崇史

この度は、大変素晴らしい賞を頂戴し、大変光栄に存じます。また、コロナ禍の中、大会の開催にご尽力いただきました大会組織の先生方、またスタッフの皆様に御礼申し上げます。私は精神科医として、年々増加している児童虐待が社会脳形成に与える影響について解明したいと志し、発達期のマイクログリア由来 BDNF に注目して研究を行っています。今回の受賞を糧に、一層精進してまいりますので引き続きご指導ご鞭撻の程、宜しく願い致します。

名城大学大学院薬学研究科 薬品作用学研究室 博士課程3年
高羽里佳

この度は、Neuro2022 若手道場で優秀発表賞をいただき、大変光栄に存じます。日頃から御指導をいただいている先生方に心より感謝申し上げます。口頭発表内容に関して多くの方に興味を持って頂き、フィードバックでの御助言が、研究を遂行する上での大きな励みになっています。セロトニン作動性幻覚薬が示す抗うつ作用における分子・神経基盤を解明し、精神疾患の新規治療薬開発という大きな目標に向かって、より一層精進します。

慶應義塾大学医学部解剖学仲嶋研究室 医学部5年
林光太郎

演題：「哺乳類発生期大脳新皮質で移動神経細胞が辺縁帯直下で移動を停止するメカニズム」

この度はこのような素晴らしい賞を頂き大変光栄に存じます。仲嶋教授、林先生を始めとする研究室の皆様には改めて感謝申し上げるとともに、貴重な発表の場をご用意頂いた大会関係者の皆様、ありがとうございました。現在私は「発生期大脳新皮質の移動神経細胞が移動を停止するメカニズム」について研究しております。今回頂いたご助言を活かして精進して参りますので、今後ともご指導ご鞭撻の程宜しく願い申し上げます。

Kyushu University
Daniel Gallagher

As a PhD candidate at Kyushu University, I am using electroencephalography and transcranial electrical stimulation to research the neurophysiology of second language acquisition under the supervision of Dr. Shinri Ohta. I was

pleased to present amongst my peers my findings on “the Effects of Left Inferior Prefrontal Cortex Anodal Stimulation on Second Language Acquisition” at the NEURO2022 Wakate Dojo. When I was chosen as a recipient of the Best Presentation Award, I was overjoyed! It has greatly boosted my motivation to continue in my line of research and put my best effort into analyzing my data and publishing the findings of my recent experiments. I am deeply indebted to Dr. Shinri Ohta, my colleagues at Kyushu University, and the judges and organizers of the NEURO2022 Wakate Dojo. Thank you to you all for your continued support!

Osaka University
Matthew J. Holland

It is a great honor to have received this award, especially considering that there were so many other stimulating and high-quality research presentations. The fundamentals of statistical machine learning theory have many close conceptual connections to the neurological and physiological foundations of human activity and in particular decision-making under uncertainty. I hope that by further developing the theory and methodology of reward distribution control in the machine, new links, deeper relationships, and additional collaborative opportunities between these fields will begin to emerge.

Okinawa Institute of Science and Technology (OIST)
Mohamed Mostafa Kamal Eltabbal

I studied medicine in Egypt then did my master studies in Germany at the German center for neurodegenerative diseases and Leibniz institute for neurobiology where I investigated the role of brain extracellular matrix in neural information processing. I moved to Japan and started my Ph.D. in Okinawa institute of science and technology. One of my PhD research endeavors is understanding the neural control of discrete tongue movement. The complexity of how mammals use their tongue precisely in a wide array of behaviors is still elusive. I developed a novel behavioral learning task requiring spatiotemporal precision of discrete tongue movement. I described distinctive phases and types of tongue movement along with learning dependent kinematic changes of tongue movement. I am currently investigating the role of cerebellum in controlling these adaptive tongue movement using optical imaging and chemo-genetics. I am honored to be recognized for this award.

Okinawa Institute of Science and Technology Graduate University (OIST), Cell Signal Unit,
Junior Research Fellow
Mohieldin Youssef

My educational background is in pharmaceutical sciences, and master's degree in Pharmacology and Toxicology from Ain-shams University, Cairo, Egypt. I received my Ph.D. in Neuroscience from OIST, Okinawa, Japan, in March 2022. My main research interest is understanding the causes of diseases and introducing novel treatments to alleviate the burden of patients' suffering. Previously, my research interest was in cancer biology towards using natural

compounds to enhance the therapeutic effects of chemotherapeutic agents. Afterwards, I switched to neuroscience, investigating the molecular mechanisms orchestrating psychological stress resilience, and highlighted a novel function for a gene named “Tob” in such machinery. Soon, I will start working on investigating the role of RNA-binding proteins in ALS neurodegenerative disease in SickKids hospital, Toronto, Canada. The best presentation Wakate Dojo award will help advance my career. I felt happy and honored with such recognition from the Japanese Society for Neurochemistry which supports young researchers.

University of Tokyo, Ph.D. student
Yi-Yuan (Teresa) Huang

This is Yi-Yuan (Teresa) Huang, a Ph.D. student at the University of Tokyo. My research interest is to unravel the neural mechanism of how our brains proactively work through learning statistical regularities in the sensory world. It was a great opportunity to present my current research project about the predictive processing in multiple sensory modalities and hierarchies in Wakate Dojo of Neuro2022. I was very glad to receive the Best Presentation Award with the gratefulness for the valuable suggestions and the academic interactions. The extension of my research theme is now being pursued to cover different related domains such as hierarchical temporal predictions. I hope to share my findings at the conference next year.

理化学研究所生命機能科学研究センター
稲田健吾

この度は優秀発表賞を受賞出来て嬉しく思います。東京大学大学院総合文化研究科で博士号を取得した後、現所属先にて今回受賞対象にもなりました父性養育行動発現の神経回路基盤を研究しております。今後とも研鑽を忘れず、「日本に稲田あり」と世界から言われるよう精進いたします。

京都大学大学院医学研究科 臨床神経学講座
上田 潤

この度は優秀発表賞をいただきまして、大変光栄に存じます。私が今回このような素晴らしい賞を受賞できたのは、京都大学大学院医学研究科臨床神経学講座の高橋良輔教授をはじめとする関係者の皆様のご指導・ご協力のおかげですので、この場をお借りして御礼申し上げます。私はパーキンソン病の病態解明および治療法探求をテーマに研究をおこなっております。若手道場では、数多くの興味深い発表を聞き、活発な議論を交わすことができ、これからの研究を進めていく上での大きな励みになりました。今後も研究に邁進してまいりますので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

広島大学大学院統合生命科学研究科・生命医科学プログラム 博士課程後期3年
亀村興輔

この度は若手道場口演におきまして優秀発表賞をいただき、光栄に存じます。大会関係者の皆様、そして常日頃からご指導を賜っております広島大学細胞生物学研究室の千原崇裕先生並びに研究室の皆様へ深く御礼申し上げます。私にとって学会でこのような賞をいただくのは初めての機会であり、大変喜ばしく存じます。私は現在、「筋萎縮性側索硬化症関連タンパク質 VAP の細胞外機能と分泌機構・トポロジ制御機構の解明」をテーマとして日々研究に励んでおります。私は将来、日本の大学機関において生命科学分野の研究者になることを目標としております。今回の受賞を糧として、これからもより一層研究活動に邁進していきたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願い致します。

東京大学大学院 総合文化研究科 修士課程2年
清岡大毅

この度は若手道場優秀発表賞をいただき光栄に存じます。演題の内容は、マウスの脳のカルシウムイメージングデータを用いて、脳状態を維持するために必要な熱力学的なコストを推定するというものでしたが、会場の皆様からは多くの貴重な質問・コメントをいただくことができ、大変刺激になりました。会場の皆様、大会関係者の皆様へ深く感謝申し上げます。また、本研究の共著者の皆様からは、日頃から熱心に指導していただきました。深く感謝申し上げます。今回の受賞を励みに、今後一層精進する所存でございます。

立命館大学 生命科学部 生命情報学科
塩谷和基

この度は素晴らしい賞を頂戴し、大変光栄に存じます。私が所属しております日本神経科学学会・日本神経回路学会の年大会には、若手道場というものが存在せず、日本神経化学学会との合同大会にのみ開催されることから、優秀発表賞を受賞できるのは数年に一度のチャンスだと考えており、日々の研究を邁進して参りました。その結果が評価されて、大変嬉しく存じます。私は、嗅覚の研究を行っており、その中でも今回は美味しさに重要であるとされる風味の脳内情報処理メカニズムの解明を目標とした研究の発表を行いました。現在、本研究は初期段階ですが、今後の年大会において、よりレベルアップした研究内容を発表することを目標とし、より一層研究活動に励んでいきたいと考えております。

名古屋大学大学院医学系研究科 機能形態学分子細胞学
辻 貴宏

受賞に際し、学会主催者の皆様、ご指導いただいております和氣弘明先生に厚く御礼申し上げます。私は京都大学を卒業後、臨床で勤務した後に京都大学で博士号を取得しました。もともと肺癌の研究を専門としていますが、ポスドクから名古屋大(和氣研)に転属し、現在は転移性脳腫瘍の形成過程とグリ

アの応答を生体内可視化を用いて解明しようと日々研究しています。この賞を励みに、神経と癌の研究分野を結ぶ学際的な研究者を目指して今後も精進いたします。

筑波大学人間総合科学研究科生命システム医学専攻
安垣進之助

この度は、このような素晴らしい賞をいただき、大変光栄に思います。若手道場への登壇は3年ぶりで、今回は「人為的なレム睡眠増加がマウスの社会的ストレス抵抗性に影響を与えるか」という演題で成果発表いたしました。ディスカッションの際には、会場の皆様から、過去の学会発表では経験したことのないほど多くの、かつ的を射たご質問やご助言をいただき、大変勉強になりました。今後も機会がありましたら、若手道場へぜひ応募したいと考えております。